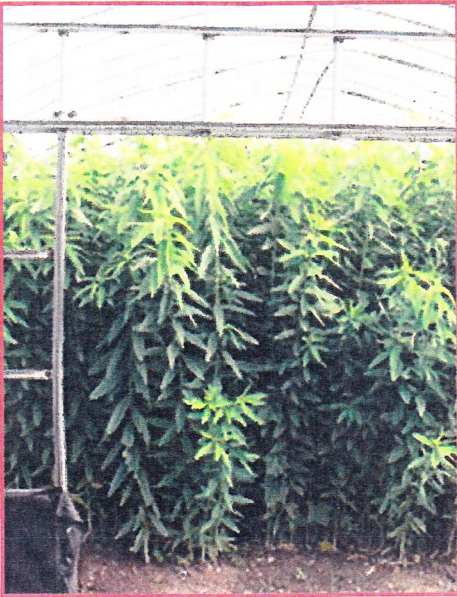


低コストな土づくりは、緑肥＋発酵鶏ふんの活用！

◆クロタリア (マメ科の緑肥)



- 次の予定作物：野菜（マメ科以外）、根菜など
- 主な効果：地力チツソが増加。（やせ地に最適）
- 種まきの量：300坪あたり5kg程度
- 播種後2～3ヶ月でスキ込み（開花前に実施）

次回作まで畑が3ヶ月空くなら緑肥栽培！

※栽培2ヶ月 + スキ込み1ヶ月 = 3ヶ月

クロタリアのスキ込みは、

堆肥に換算すると、1トン～2トン投入(300坪)とほぼ同じ。

※クロタリア 500～1000 kg(乾物) →堆肥換算(水分50%)で1000～2000 kg

◆◆◆ お勧めの発酵鶏ふん ◆◆◆

海邦有機

かいほう ゆうき

黒潮有機

くろしお ゆうき

豊作有機

ほうさく ゆうき



どこんじょうまる

《緑肥スキ込みでの使い方》

- 緑肥のスキ込みは、次の作物の作付(種まき、定植)30日前までに行ってください。
- その際に発酵鶏ふんを **300坪あたり5～10袋程度**、一緒にスキ込みします。
- この発酵鶏ふんのスキ込みは、緑肥(クロタリア)の堆肥化を促進するためのものです。

※クロタリアは、ソルゴーよりも堆肥化(腐熟)しやすい性質がありますが、スキ込み時期が遅れると茎が硬化し(開花以降)、腐熟しづらくなることがあります。発酵鶏ふんは、この場合での腐熟を促進し、充実した土づくりが期待できます。

○基肥は、通常通り行ってください。(有機ペレット685、ハイパーCDU566など)